

令和6年度全国学力・学習状況調査の公表に係る教育長コメント

令和6年7月29日

本日、4月18日に実施した「令和6年度全国学力・学習状況調査」の結果が文部科学省から公表されました。なお、4月17日に発生した豊後水道を震源とする地震の影響により、宿毛市立の小・中学校は本調査を後日実施しましたので、今回の県全体の学力に関する調査結果には含まれていません。

まず、学力の調査結果を校種別・教科別にみてみますと、小学校国語では県平均と全国平均との差が+0.8ポイント（前年度比-1.3）、算数では-0.1ポイント（前年度比-2.3）となっています。

また、中学校については、国語は全国平均との差が-2.1ポイント（前年度比-0.8）、数学は-2.6ポイント（前年度比-0.2）であり、全国平均には届いていない状況です。

今回、全国平均との差において、前年度結果から最も下降した小学校算数について分析したところ、式の意味を考えることや、獲得した知識を活用して問題解決を図ることに課題がみられます。

中学校の国語においては、文章を要約することに、また、数学は証明することに引き続き課題が残っています。

こうした課題の改善のためには、知識・技能を定着させることにとどまらず、それらを使ったり、組み合わせたりして生活の中にある問題を解く活動や、他者と話し合い自分の考えを深める学習を充実させていくことが必要であると考えます。

次に、質問調査から各校の学習の状況をみてみますと、1人1台端末などのICT機器を「ほぼ毎日授業で活用している」学校や、「毎日持ち帰って、毎日利用させている」学校は、前年度より大きく増加しています。多くの学校でICT機器の日常的な活用が定着しつつあるものと捉えています。

「1人1台端末などのICT機器をほぼ毎日授業で活用している」学校の割合

小学校 84.4%（前年度比+20.8ポイント、全国比+15.4ポイント）

中学校 84.4%（前年度比+12.0ポイント、全国比+16.9ポイント）

「毎日持ち帰って、毎日利用させている」学校の割合

小学校 39.3%（前年度比+30.1ポイント、全国比+17.4ポイント）

中学校 47.8%（前年度比+32.5ポイント、全国比+21.2ポイント）

一方、授業外の学習については、平日30分未満と答えた児童生徒の割合がおよそ2割（小学校19.5%、中学校24.0%）、休日1時間未満と答えた割合がおよそ5割（小学校51.1%、中学校46.4%）となっています。これらの要因と対策をしっかりと分析・検討するとともに、授業と授業外の学習を切れ目なくつなぐ学びの実現に向けて取組をさらに進めていかなければならないと考えています。

児童生徒の意識の面をみますと、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と肯定的に回答した割合が小・中学校ともに前年度より増加しています。また、「将来の夢や目標をもっている」と肯定的に回答した児童生徒の割合も前年度より増加しています。これらは、道徳教育やキャリア教育などに地域ぐるみで取り組んだ成果であると捉えています。

「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と回答した児童生徒の割合

小学校 84.8%（前年度比+7.1ポイント、全国比+1.3ポイント）

中学校 81.2%（前年度比+10.4ポイント、全国比+5.1ポイント）

「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童生徒の割合

小学校 82.6%（前年度比+2.4ポイント、全国比+0.2ポイント）

中学校 69.1%（前年度比+0.3ポイント、全国比+2.8ポイント）

県教育委員会としましては、「第3期高知県教育大綱」や「第4期高知県教育振興基本計画」に基づく取組を着実に進めるとともに、市町村教育委員会や学校と協力して、個別最適な学びと協働的な学びを着実に推進することで、高知県の児童生徒の学力の定着と向上に努めてまいります。

高知県教育長 長岡 幹泰